

第14回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

- と き：令和2年5月2日（土曜日）16時15分から17時30分まで
- ところ：本館5階 正庁の間
- 出席者：吉村知事・田中副知事・山野副知事・山口副知事・副首都推進局長・危機管理監・政策企画部長・報道監・総務部長・財務部長・スマートシティ戦略部長・府民文化部長・IR推進局長・福祉部長・健康医療部長・商工労働部長・環境農林水産部長・都市整備部長・住宅まちづくり部長・教育長・府警本部警備部長・大阪健康安全基盤研究所公衆衛生部長・大阪市健康局首席医務監・朝野座長・砂川オブザーバー

【会議資料】

会議次第

資料1-1

資料1-2

資料1-3

資料2

資料3

資料4

【知事】

- ・みなさんお疲れさまです。そして朝野先生と砂川先生、ありがとうございます。
- ・今回、5月6日までの緊急事態宣言が国において、この全国の状況を見た時に、延びるという方針が示されました。
- ・一方で、その中で、昨日、国の専門家会議のみなさんが一定の方針を示されました。感染が厳しいエリアと、そうでない収束に向かっているエリアと2つあると。大阪は感染が厳しいエリアに属するのかなと思いますが、その中で今までとってきた、府民のみなさんをお願いしてきた、外出の自粛であったり、休業のお願いであったり、様々な策を取っているわけですが、これを今後どのようにしていくのか、その方向性というのを、あらかじめ早い段階で示す必要があるだろうというふうに思います。
- ・というのも、5月6日までゴールデンウィーク中はお願いするというのは、引き続きお願いをしながら、5月7日以降どうするのという事を考えた時に、やはりみなさん特に事業者のみなさんは、様々な準備等もあります。
- ・そういう点も考えると、やはり直前に判断するというのは、準備も出来なくなりますから、大阪府としての方向性、これは緊急事態宣言が延長され感染が厳しいエリアという事を前提にした上での、この後で朝野先生のご意見をお伺いしますが、それを前提にした上での大阪府の今後の対応方針等々を決めてまいりたいと思います。
- ・そのあたりを本日、議論したいと思いますので、よろしくお願いします。

※資料1-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-2に基づいて、危機管理監より説明。

※資料1-3に基づいて、危機管理監より説明。

【事務局】

- ・ それでは、ここで大阪府新型コロナウイルス対策本部専門家会議の朝野座長、砂川先生から、それぞれご意見をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【砂川オブザーバー】

- ・ 大阪府下で発生している集団感染の対応の支援という事で、度々大阪の方に来させていただいております。
- ・ 大阪の感染状況全体の部分についてのコメントを先にした方がよいという事で申し上げます。
- ・ 大阪府下では、当初ライブハウスでの感染の事例があり、それは非常に広範な検査の実施によりまして、目に見えないクラスターを見える事に成功しまして、他の都道府県におけるクラスターの検出にも繋がるという、非常に大きな成果を上げたというふうに思っております。
- ・ その状況につきましては、一旦3月の月上旬には収束をしたわけですが、その後は海外の色んな国の閉鎖という状況の中で、たくさんの帰国者が日本国内に帰ってくるというような状況の中で、日本全国、これは大阪も同じであります、感染者の、陽性者の増加という状況に至っている状況であります。
- ・ そのような形で撒かれたウイルスが徐々に、色々な形で広がってきたという事で、最初はいわゆる接待を伴う飲食業のクラスター等で見つかるというような状況でありましたが、その間に非常事態宣言等の状況もあり、今度は院内感染が増えるという状況もあり、現在に至っているという状況があります。
- ・ この大阪府下における色々な対策ですが、3月20日の大阪兵庫往来自粛要請であったり、その一週間後の外出自粛要請等がありましたが、大阪全体での発症のピークというのが、4月3日だったわけですが、その3月の後半の色々な対策がかなり功を奏していた形が出てきているのが、この大阪の発症日別の状況の推移かなというふうに見ております。
- ・ 国全体の非常事態宣言というようなところもそれに後押しをするような形で、徐々に全体としてできているというようなところですが、いわゆる増加のスピードに比べますと、減少のスピードというふうなところは、やや緩やかな状況があるというところでありまして、まだまだ予断を許さない状況が続いているような事だろうと思ひます。
- ・ 特に重要な指標として、考えております所の、例えば、新規陽性者数に占めるリンク不明例の割合であるとか、それから特に検査、これは検査をどんどん増やしていこうという動きの中にありますが、その検査の中に占める陽性の割合というのは、これは一定のところでは推移をしていきますので、このような指標を見ながら、今後この状況の推移をよく分析していく必要があるというふうなところで、私どもも情報提供をしていきたいというふうに思っております。
- ・ 今現在、行動変容の方がかなり効果を奏しまして、多くみられている患者さんの発症の場所というのが、例えば家庭内であったりとかそういった所になってきていますので、そういったところに特化した対策などを行っていくというようなあたりが必要であろうというふうに感じているところがあります。
- ・ そういったところで、この今大阪という地域が感染のリスクという点においては、減少してはいるんですけども、人口も多いですし、人の密度も高い地域が多いですので、そういった点ではまだまだリスクが高い地域であるという状況がありますので、私はこの対策については、継続的に強化していくという状況が、まだ必要な状況にあるのではないかとこのように見ています。

- ・私の方からは以上であります。

【朝野座長】

- ・まずは、今のトレンドを見ますと、一つの山を越えてきたようにも考えられております。ただこれは皆さんもお考えのように、一つの山を越しただけで、次の山もまた来るであろうというふうな想定をする必要がございます。
- ・特にこの冬などにインフルエンザと一緒にまたこれがくると、医療現場が非常に混乱いたします。発熱患者がインフルエンザなのかコロナなのかという事で、検査をどのようにするか、あるいは本当にどこで診療するか、これが府民の皆さんも病院にアクセスするのが非常に難しくなるというふうな事も起こり得ますので、そういう意味でいうと、次のストラテジー、次の戦略を考えながら、この波をいくつか越えていくという、こういう考え方で立ち向かう必要があるのではないかとこのように思っております。
- ・私たちの現場の感覚といたしましては、今回の波がきまして、3月の末ぐらいは非常に逼迫しておりました。
- ・重症患者さんが、阪大病院でございますので、重症患者さんを引き受けさせていただいておりますけれども、重症患者さんの問い合わせがかなり頻回にあっておりました。ただ、この全体の流れの中で、少し患者さんが減ってきますと、そういう事もあまり逼迫した状態ではなく、日常の診療として、重症患者さんにあたる事ができており、現在のところ阪大病院では、亡くなられた方はいらっしゃらないというふうに非常にそういう意味では、皆さんの医療がしっかりとできたかなというふうに考えております。
- ・それと、今後の事でございますけれども、やはりベッド数の問題がございます。病床数ですね。特に重症の病床数を十分に確保して、重症化する方を救命するという事が第一の目的になるかと思えます。
- ・特にご高齢の方の死亡率が高いという事が、先ほどのデータからもありますので、そういう方にいち早く十分な医療を提供する事が必要です。
- ・そのためには、諸外国のような戦場のような状況にならないように、十分な人材と機械とベッドですね、これを準備しておく事が必要かと思えます。
- ・そうは申しまして、先ほども申しましたように、山がいくつかくる、山の谷間というのがございます。
- ・その時の臨戦態勢でという事には、なかなか緊張がとけませんので、少し波に合わせて、医療体制を可変的に動かしていくという事も一つの今後の取り組みとしては必要かと思えます。
- ・常に満杯の十分なベッドを確保するという事になると、他の診療、他の医療というものが阻害されてしまう可能性もございます。
- ・府民の皆さんの健康のためには、その時々に応じた可変的な運用というものも今後は必要になってくる、およそ2年ぐらいの間、ワクチンができたり、あるいは集団免疫が確立されたりするまでの間は、常にコロナの流行というものを視野においた医療体制というのが必要でございますので、大阪府としてもその支援をしていく事が必要かというふうに考えております。
- ・それから、検査の事でございますけれども、PCRについては、よくもっと増やしたほうがいいだろう、あるいはそこまで増やさなくてもいいだろうというふうなお考え色々ございますけれども、やはり府民の方が安心していただけるようにPCRの件数は、ある程度増やしていく必要があると思えます。

- ・そのため今、律速段階になっているのはキットの問題、キットというか試薬の問題がございまして、これはほとんどが輸入によって頼っていたという事で、世界的に足らなくなってきているという事がございます。
- ・ただ、国産のものも少しずつ開発されてきておりますので、これに応じてPCRの件数を増やしていくというような事も今後は、府としてもお取り組みいただければと思いますし、そこには医師会等の先生方のご協力等を仰ぎながら、あるいは検査室の確保という事も視野に入れながら、PCRを増やしていくという事も一つの戦略として、お考えいただければと思います。
- ・もう一つはやっぱり、院内感染の問題がございまして。ここは非常に重要な問題で、感染対策というか陽性患者さんが来るとわかっている時には、しっかりとした対策ができるのですが、市中に感染者が増えてくると、全く違う病気が入ってくるという事があるわけがございまして、そこが一番危ないというリスクがあるところで、感染してるものとして、感染していらっしゃる事を前提として、院内感染対策をしっかりやるという事が今後は求められる。
- ・ただ、だんだんに患者さんの数が少なくなると、その頻度も少なくなりますが、この今起こっている院内感染はおそらく、3週間4週間前から入ってきて、それが広がって気づいたという事でございまして、一番感染者が多かった時期に入院された方の中にいらっしゃったであろう、という事になりますので、やはり一番は市中における感染者の数を減らすという事、それによって院内感染も防げるという事。
- ・ただし、院内感染は常に起こり得るものだと対応する、そこに何が足りないかという点、個人防護服、ガウンとかマスクとか色々なものが足りないという事になりますので、そのあたりも是非、大阪府としても各病院にそういう物が使える状況を作っていただくという事も、今後の目標という事としてお考えいただければというふうに考えております。
- ・いずれにしても、これからの長い視野での、この山を越えたからOKというわけではなくて、何度もくる波をどう乗り越えていくかという事を、常にその時々に対応できるという体制を構築していく事が、今求められているというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【知事】

- ・砂川先生にご質問というか確認なんですけど、昨日、専門者会議で一定の方向性が示されました。感染が厳しいエリアとそうでないエリアが日本の中にあるだろうと。
- ・感染が厳しいエリアについては、今とっている厳格な措置というのを、できるだけ継続するよというの、昨日の専門者会議の意見だったと思うのですけれども、大阪はこの感染が厳しいエリアに入るという理解でいいんですかね。

【砂川オブザーバー】

- ・陽性者数は減少してきておりますが、まだ一定程度あるという事と、それから元々の人口の多さ、人口の密度を考えると、感染は厳しいエリアであるという認識でよいと思います。

【知事】

- ・この緊急事態宣言、4月7日から5月6日までは、この間はものすごく府民の皆さんも事業者の皆さんも、全員で協力しながら抑え込みをやってきて、そしてある意味大きな効果を得たという理解でいいんですか。感染症的な立場から見ても。

【砂川オブザーバー】

- ・新たな発症者数の推移を、それぞれ大阪府として出された色々な施策であったりとか、国の緊急事態宣言などのタイミング等と併せて考えても、大きな効果をあげているのは確かだと思います。大きな効果をあげているのは確かですが、その減少のスピードというのはそれほど速くはない、そういった状況があるという事がありますので、この厳しい状況は継続する事にはなりませんけれども、この状況をちょっと緩めるのはリスクが大きいかなというふうに感じています。

【知事】

- ・先ほど先生もおっしゃっていた、このウイルスというのは、感染してから潜伏期間が長いので、覚知するまで約**2週間**ぐらいあると。なので減少傾向に生じているのが、**4月の3日・4日**、これをピークに下がってきているので、ある意味**3月20日**の大阪・兵庫の往来自粛の効果も含めて出ているというそういう事なんですよ。

【砂川オブザーバー】

- ・**4月3日**の発症日をピークとして下がっているというような状況がありますので、それを併せて考えますと、やはり**3月20日**、**3月27日**このあたりの一つの楔のように効果的にこれが効いているなという印象を持っています。

【知事】

- ・それで一定の効果が出てきて、オーバーシュートは避けられている状況にはなっているけれども、今のこの取っている措置、協力をお願いしている内容、これはやはり継続しないと危険だよと、そういう理解なんですか。

【砂川オブザーバー】

- ・そうですね。だんだん**4月**も後半になって、後半というか中旬以降ぐらいになっていきますと、先ほどご指摘がありましたように、院内感染の事例がぐんぐん増えてくるような状況がありますので、院内感染の数として、この中にその陽性者の中に占める割合というのも、一定程度あるだろうとは思いますが、それを含めて見てもやはり、すごく急速に下がっている状況ではないんじゃないかなというふうなところが見てとれますので、他の都道府県と大阪も囲まれているという状況がありますので、それだとある程度、ハーモナイズされたような対応として、考えていく必要があるだろうというふうに感じます。

【知事】

- ・これを仮に今、府民の皆さんをお願いしているのを続けると、色んな自粛、厳しい休業のお願いなんかを続けるとして、じゃあ府民、事業者の立場からすると、これって一体どうなれば出口が見えてくるんですかというのは、気になるところだと思いますし、これは最後は本部会議で、大阪府の方針として決めるので、これは先生の意見という事でお伺いしたいのですけれど。
- ・それがないと減ってきて、**1ヶ月**ものすごい死に物狂いで頑張ってきて、実際に倒産したり、あるいは職を失う人も中には僕はいてる、それぐらい痛みを伴いながら**1ヶ月**やってきた、それで実際ある程度効果も出てきている、更にこれ延長となったら、どうなったらこれは、一挙に解除は難

しいですけれども、ウイルスに怯えながらも適切な措置を取りながらも徐々に日常社会活動を取り戻していくという視点も大事だと僕は思います。その時にどういう指標というか、どういうものを基準にしたら、いいと思われませんか。

- ・僕は自分で思っているのは、やはり医療崩壊を防がなければいけないので、医療のキャパシティが大阪にどれくらいあって、そしてどのくらい現実には患者さんがそこに入っていて、どういうふうに一定の基準がそれに近づいてきて、超えたらオーバーフローしますから、その一定の範囲内に収まっているのであれば、その範囲の基準は作ってですね、収まっているのであれば、徐々に徐々に感染症対策はとりながら、今はとにかく家に居てくださいというのは、ほとんど全員出ないでくださいというような状況で、店は全部閉めてくださいという状況ですけど、その中でもリスクの高い所とそうでない所もあると思いますし、徐々に徐々に解除という事に繋げていかないと、ずっとやっぱりこれはやるわけには、社会としてもやっぱりいかないとこもあると思うので、そのあたりの、僕はそう考えているのですけれど、専門家の立場から見たらどういう出口戦略というか、どういう考え方があるのかなと、ちょっとお聞きしたのですが。

【砂川オブザーバー】

- ・今、減少傾向にありますので、これは緩やかなという状況ではありますが、このままの一定程度推移していくというところを期待しているわけですが、もしこれが途中で何らかの要因があって、上昇に転じるような事があれば、これはもはやもう一回締めなおす必要があるわけですが、これが減少していくという過程の基で考えた際の印象としてちょっとお伝えをさせていただきますと、まず第一に、一つはウイルスが完全にいわゆる除去された社会というものが、例えばこれを更に延長した上であっても、すぐにこれを期待するというのは、かなり無理があると思うのです。
- ・なので、ウイルスが存在している状況の中で、いかに社会活動を再開していくかということによく知恵を出していく必要があるだろうと思うのです。
- ・なので、そういった意味で今回の、もしこれが延長していくような状況が合意されるとしたら、その中でそれ以降の期間について、どのような形でいわゆる社会的な活動を段階的に解除していくかというふうなあたりを、それを確実な形で行っていく、そして賢明な形で行っていく方法について、よく準備をしていく期間になっていこうと考えるます。
- ・特に感染症というところで考えると、その一つの指標のあり方という事が大事になっていくような事で、おそらくはそれに資する情報としては、この中でもいくつか情報が出ておりますけれども、例えば報告される陽性者数に占めるリンク不明例の割合であったり、あとそれこそ検査の数というのは、どんどん増やしていこうという方向性にもあって、これは変動していくわけですので、そこの中にある陽性者数の割合の情報とか、それからもちろん日々の発症者数の推移とか、色々な情報を見て、総合的にその中でリスクが上昇してるとか、こういったあたりをよく判断して対応を行っていくと、このあたりが必要じゃないかなと考えるます。

【朝野座長】

- ・先ほど申しましたように、そういうメルクマールを見ながら、アラートを早期に察知して自粛、先ほど申しましたように波はいくつかくると思います。その波を上手く乗り越えるためには、早期にメルクマールを察知して、これは明確にすべきだと思います。
- ・メルクマールは何なのだとすることは明確に示すべきであって、総合的な判断とか、そういうことを言いますとなかなか難しくなるので、こういうポイントを押さえて、ここがちょっと上昇傾向に

なったら、ちょっと自粛をもう少し強めようとか。

- ・これは緊急事態宣言前に大阪府の自粛、あるいは県をまたいで移動を自粛して、それだけでもかなり数が減ってきたということがございますので、そういう手を打ちながらやっていくことが必要だということが一つでございます。
- ・ただ、その間に、やはりベッドの問題があります。今回は、何とか大阪府の医療体制の中で、患者さんを診療、治療することができております。それでも残念ながらお亡くなりになった方も2パーセント以上いらっしゃるという状況でございますが、何とかベッドが溢れるようなことはなかったということ。
- ・ただ、これが指数関数的ないわゆるオーバーシュートの動きになってくると、とても今のベッドでは足りませんし、いくら用意しても多分足らなくなると思います。だから、その前にできるだけブレーキを早く踏んで、府民のみなさんに少し自粛を要請していただくということが医療側としては希望でございます。
- ・そのようにして、上手くコントロールしていただくということが一つと、ベッドを今の数では足りるとは思いませんけれども、もう少し増やしていく。先ほど申しましたようにベッドの数については、少し他の医療の問題がございますので、可変的に動かせるようなベッドを各医療機関でそれぞれに用意していただいて、「マキシマムにして下さい」「半分にして下さい」というふうな感染の状況に応じて変えていく。これを何回も何回も乗り越えていくという覚悟の下でやっていくということになります。
- ・もう一つは、府民のみなさんに安心していただくためには、やはり検査ができるという体制を作っていたらいい。
- ・こういうベッドの問題、検査の問題、こういうものを踏まえた上で何らかのメルクマールを使いながら、生活の緩急を付けた府民のみなさんの生活をやっていただければ、医療側としてもそれに对应できるような体制を作っていくべきかというふうに考えております。
- ・何度も申しますけれども、何回も来る波をどうやって乗り越えていくかという長期的な展望の方が大事で、今乗り越えたということは、それは乗り越えられるかもしれないということはもちろん目の前のことでございますけれども、これが1回では終わらないという考え方をしていただいて、長期的に来年のこと、再来年のことぐらいまで考えて、対策、戦略を練っていただければというふうに考えております。

【知事】

- ・朝野先生がおっしゃる例えばメルクマールというのは、どういうものが分かりやすい指標か、あれば教えていただきたいと思うのですが、概念としては、そういった上がり曲線の兆候が見られた時には、できるだけ早く抑えることによって、社会とかに対するお願い事項も少なくて済むというか、早めにその山を潰すことができるという観点だと思うのですよね。
- ・それだと普通に考えたら陽性率とか、そういう陽性率のトレンドかなと思いますし、僕が考えているいわゆる医療崩壊を起こさないという結論的には同じことなわけですけれども、ベッドの数だけを見ると、それはその時点での数字になるので、ぐーっと完全に指数関数的に伸びてしまうと、結局はどれだけあっても足りないということになりますから、そういう意味では陽性者率で一つ上がり曲線というのを見ながら、もう一つは大阪府の医療のキャパシティ、重症と中等症のベッドがどのぐらいあって、どのぐらいに危険水準に差し掛かっているのか。その辺りを指標化して判断するというのが、今考えられる賢明な措置というか、対応になるのですかね。その辺りどうですか。

【朝野座長】

- ・ベッドというのは、重症の場合は長期に入院されることが多いですから、積み重なっていくのです。数というのは。ですから、やはりそこにスピード、速度というものが必要である。数がどのぐらい大きかったか専有されたかということプラス、どのぐらいのスピードで専有されていくかというスピードの解析というのが必要でございますので、単に **50** パーセントだ、**60** パーセントだというだけではちょっと判断にはならないというところがございます。

【知事】

- ・そのスピードを把握する今、我々が持ち得る指標というのは、何が一番それに合致することになるのですか。スピードを把握する指標としては、陽性者率ですか。砂川先生のおっしゃる。

【砂川オブザーバー】

- ・さっき申し上げて陽性者率、それからリンク不明の割合というのは、毎日これは情報として出てくるものですので、毎日評価することはできます。

【朝野座長】

- ・**1** 週間だと凸凹が出ますので、いわゆる疫学解析する時は、移動平均というのを使います。何かというと、**1** 週間分をまとめて平均して、それを **1** 日ずつ足していくという方法で、なだらかにしていくという方法がありますので、土曜日急に少なくなってああ良かったという話をすると、ちょっとこれは正しい評価にはならないので、そういうちょっとしたテクニックを使いながら、疫学の方で解析していくということになります。

【知事】

- ・そしたら、**7** 日単位で見て移動平均をして、いわゆる曲線ではなくて、平均的な数字で、どういうトレンドになっているのかというのを陽性者率とリンク不明の人がどのぐらい増えているのかというのを、何か指標化するのをちょっとアドバイスいただけるとかというのはできますか。

【砂川オブザーバー】

- ・これは大阪の中では情報としては分析されているものに含まれているだろうと思います。

【知事】

- ・あとよく言われるのは、実行再生算率なわけですけれども、あれは今回でも発表されたのは **4** 月 **10** 日の数字で、後追いの数字だから、そういう参考にはなるとしても、リアルタイムで出てこない、いわゆる我々が考える指標化にはならないと思うのですけれども、この辺りはどうですか。現実性がないのだったら、あとは参考にしても、することがあったとしても、現実の判断材料にできるのかなど。今、**4** 月 **10** 日を出されても、それは意味がないんじゃないのと思ったりもするのですけれども、その辺りどうなのですか。

【砂川オブザーバー】

- ・精緻な分析にもなりますので、そういった意味では後ろ向きの情報の収集とか分析という点では有

用になります、若干タイムラグが生じてしまうという点は否めないと思います。

【知事】

- ・日本政府としては、この実効再生産数について、判断基準として見ていこうとか大きなトレンドは分かると思うのですが、何か危険を察知する信号として受入れようというのは何かやっている方針なのですか。
- ・諸外国によっては、実行再生産数を毎日リアルタイムで出したり、それを基準としている、あるいは色んな解除基準だったり、危険信号の基準にしているところもあると思うのですが、日本政府は、あんまりそこはリアルタイムで出してやろうということにはなっていないということなのですかね。
- ・日本政府のことを砂川先生に聞くのもあれなのですが、厚労省の考え方というか、研究所チームの考え方というか。

【砂川オブザーバー】

- ・私が代表して何か言うものでもないですが、基本的にそれが1に向かっているか、どんどん下がってくるかという辺りになってくるので、その辺りも含めた大きなトレンドを見ていく上では、非常に重要な指標だと思います。日々、これを見て政策決定に結び付けられるほどの迅速性はないということです。

【知事】

- ・そしたら、大阪の指標としては先ず重症、それから中等症の医療体制がどのくらい整っているのか。そして、それがどのくらい埋まっているのか、というのを一定の幅を持つ数値基準を作りつつ、一方でトレンド、どういう上がり曲線になってきているのだろうかというのを把握する。
- ・これは特に陽性者率とリンク不明者数が中心になると思うが、それを移動曲線でトレンドを把握して、何か危険信号数値を作る。その数値が低い数字になれば、一定程度段階的にですけれども、徐々に徐々に解除していく。それが高まってくれば、またそれはその措置はその時その時であると思うのですが、抑えに入ってくる。
- ・そういう客観的な指標、出口戦略のようなものをちょっと作りたいと思いますので、ここは大阪府として作ると共に、専門家の先生の見聞聞きながら、どのようなものができるかというのは考えてもらいたいのですけれど。

【健康医療部長】

- ・はい。統計的な医学的な処理方法を含めまして、いくつかの指標というものをアドバイスいただいで検討したいと思います。

【知事】

- ・一定の方向性は、そういう意味で今日決められるので、5月3日には安倍総理が国としての方針と、基本的対処方針を出されると思いますから、その翌日にまた本部会議を開こうと思うので、その時はこういう考え方でいきます、というのを是非まとめてもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【健康医療部長】

- ・そのスケジュール感で今、かなりのデータを日々押さえておりますので、それをどういう形で指標として整理していくかという案をお出ししたいと思います。

【知事】

- ・もう一方は、今、色々外出の自粛をお願いしてとか、かなり強い措置をお願いしているので、継続することになるとすれば、やはり中小零細企業のみなさんの困っているところを更に延長する以上サポートしていくというのも重要になってくると思います。
- ・なので、これはこの間僕も一生懸命ずっと言い続けてきた中小零細企業の家賃、固定費がものすごく重たいという問題がずっとあります。
- ・もちろん給付金とか、融資の制度も整ってきていますから、それを使いながらですけれども、更に今回また延長をお願いするということになるので、これは休業要請をかけている、お願いするところもそうじゃないところも非常に重たいので、その家賃の支援策を大阪府独自で、これは作っていかうと思います。
- ・なので、この間、山口副知事を中心にしながら、財務部長もここは緊急事態なので、その事情も理解した上で進めてもらいたいと思います。
- ・基本的な思想としては、大家さんがいて、オーナーさんがいて、店子さんがいるという関係です。今、野党5党の共同法案が出ているのと、それから与党でも何かしようじゃないかというのが出ています。
- ・これは、国に対するプッシュはこれからも僕自身もやり続けます。やってもらったら絶対にいいのでそれはやりますが、大阪府独自でもやる。それは、方針を決定したいと思います。
- ・中身なんですけれども、野党5党の共同法案を出す時に僕からも意見して、そのエッセンスを法案に入れたのですけれども、何かというと、オーナーさんが店子さんに家賃を一定減額する。減額した時に減額した金額の大幅な部分を補助する。
- ・こうすることによって、オーナーさんにも一部負担はしてもらいますけれども、オーナーさんから店子さんに対する家賃減額のインセンティブになるように、家賃を減額してもらう。
- ・そうすると、店子さんはそれに対して、払う家賃が当然大きく減るわけなので、その民間でのやり取りというのを尊重しながら、そこにインセンティブを付けて家賃が減額されていくような、店子さんも負担も減る。オーナーさんもそれぞれが少しずつ負担するわけですが、そういった家賃補助スキームを作ってもらいたいと思いますので、山口副知事中心に進めてもらいたいと思います。
- ・この措置を延長する以上、大阪府は5月6日までと、国が決めたから一生懸命やっていきたいと思いますので、やってきたわけですから。それに対して協力金の制度も作りましたが、更に延長をお願いするということになるのであれば、経済を死なしてしまう、経済で人の命が失われることもあるので、そういった意味では感染症をやりながらも、経済を支えるというのも重要なポイントになってくるので、そういった意味では、その制度を大阪府独自でやるので、制度設計をよろしくお願ひしたいと思います。
- ・それから、基準数値を、出口戦略を4日この本部会議で最終的な府の意志として決定して、それが果たしてどうなのかというのを5月15日、丁度半分に差し掛かるわけですが、その時点で一定の折り返し地点としての判断基準ポイントにしたいと思います。
- ・その時点で定めた目標数値を下回っているような状況があるのであれば、これは一部段階的に厳し

い色々な休業要請等している部分について、解除していくという方針を取りたいと思います。その中身は何をするのというのは、これから詰めていきますが、いずれにしても社会経済活動を徐々に戻していくというふうにシフトチェンジしていくことにもしたいと思います。なので、**15日**を一つの判断基準にしたいと思います。何か意見があったら。

- ・それから学校については、今日の議題からは外そうと思います。
- ・というのも、昨日の国の専門者会議の意見でも出ましたが、感染が厳しいエリアにおいても学校については、一部再開すべきではないかという中身だったと思います。きちんとした感染者対策を取りながら。
- ・ですので、ここについては**3日**の国の大きな方針を示す時に、どういう方針が出るか予測しづらいところもあるので、それを踏まえて**4日**に判断したいと思います。
- ・こういうことも想定していたので、**7と8**については休業休校する。**4日**に国の方針が出されますから、**5日**の大阪府の本部会議で最終的な方針決定をしたいと思います。こういうことを想定して、**7と8**は予め休業措置、休校措置をとっていますので。**11日**からどうするかというのを**5日**に決めるという形で進めていきたいと思います。
- ・今回の感染状況の分析、この1ヵ月間とこれまでの分析を見ても、年代別で見ると、例えば**20歳未満**というのは感染率が**4パーセント**なのです。**20歳未満**の人口構成は**17パーセント**ですから、どう見てもやっぱり。

【教育長】

- ・すいません。資料**1-1 5**ページの表のグラフ一番右端の部分で、陽性者数の年齢別の病状というグラフがあって、未就学児のところと就学児のところなのですが、このグラフの色がよく分からなかったのですが、私は注目しますのはよく言われていますように、子どもは無症状で感染しているということがよく言われているのですが、このデータというのは、この中に凡例の中の軽症、重症、調査中、無症状、退院・解除、死亡とあるのですが、この中には無症状というのは例えば未就学児の左から**3**つ目のものは、これは無症状というデータと読み取っていいのでしょうか。

【健康医療部長】

- ・これで言いますと、退院・解除**6**の隣が無症状の欄になります。なぜ無症状の方が多いかというと、親族内・家族内感染ですので、濃厚接触者として検査をいたしますので、とりわけ年少の方については、無症状の方の陽性者の発見というのが多くなっています。

【教育長】

- ・ですので、この場合**6**ページにも書いていただいていますように、富山で感染の事例があったということもあると思います。そうした中で、子どもの感染リスクとか、子ども自身が無症状で感染を広げているリスクということについては、前々回ですか、だいたい議論にもなりましたが、結果としてエビデンスが取れていない状況にあるということでもあります。
- ・そうした中であって、先ほど知事からもございましたように政府の方針が今後出てくると。その前提となる専門家会議の中にも学校ということに着目した記述がございます。そうしたことも踏まえて、この後先生方にも朝野先生にご相談させていただこうかと思っていますが、学校のあり方についてしっかりと検討して、また知事とよく相談をして決めていきたいと考えています。

※資料2に基づいて、危機管理監より説明。

※上記資料について、意見なし

※資料3に基づいて、健康医療部長より説明。

【事務局】

- ・それでは、朝野座長、砂川先生、ご意見ありましたらお願いできますか。

【砂川オブザーバー】

- ・今、ご説明があった、このとんでもなくすごく跳ね上がっている **250** パーセントというのが、これは現実のものかということになりますと、これは現実のもので諸外国ではこういうことが起こっているということでもあります。
- ・諸外国では、これはオーバーシュートという形で起こっていて、実際にあつという間に **2** 倍、**3** 倍と二日から三日で **2** 倍になるというスピードが起こっておりまして、それはだから、こういうことがおこらないだろうという想定というのはなくて、日本も諸外国と同じように起こっていけば、これはあり得ることだということ。
- ・そうすると、病床いくら確保しても、ニューヨークなんか見ていただくと、あるいはイタリアもそうですけれども、ずらっと並べてそれで人工呼吸器にみなさん、人工呼吸器も配管というのがありまして、一つの配管を二人で受けてということが起こり得ると。
- ・幸いなことに日本は、こういうことをトレンドとして上がるだろうと **4** 月の始めぐらいというのは、実は指数・関数的と言われる上昇曲線に乗ってしまっていたのです。
- ・これは危ないということが起こっていたのは事実なのです。それが、少しずつみなさんのご協力と努力でスピードを落とし、むしろ減少傾向にまで落ちてきたというのは、すごいことだということを実はみなさんもお考えいただければと思います。
- ・多分、放っておいたらオーバーシュートの波に乗ってしまっただろう。そこで、緊急事態宣言、少し遅かったかもしれませんが、やっただいて何とか今、この山を乗り越えようとしているところで、世界と比べて日本の状況というのは未だ少し良かったかなというぐらいで、全くこれは夢物語でも何でもなく、世界で起こっていることそのものがここにあるようなことで、あつという間一週間で病床が全部埋まってしまうということが起こり得るということを想定して、また少しそういうことも、最悪の事態というか、そういうことが起こり得るということを想定して、計画を立てていただければと思います。

【知事】

- ・そうしますと、病床使用率もこれは当然重要だけれども、その陽性者率というか、上がり方のトレンドも同じように重要で、これは病床使用率と上がり方リスクというのは掛け合わせて考えた方がいいのか、別々に考えた方がいいのか、その辺りはどうなのですか。何かあります。僕の言っている意味はわかりますか。

【砂川オブザーバー】

- ・その辺りは実際、分析をしてみないと分からないかとは思いますが、元の出所が全く違うものにはありますので、何らかの指標になる可能性はありますが、今直ぐにそれが一つの指標になるとい

うふうに単純化できるのか答え兼ねます。

【健康医療部長】

- ・知事がおっしゃっていただいたように、別々のもので陽性者がたくさん発生するので病床が埋まっていくという関連するものではあると思うのです。
- ・だから、病床使用率を単体でシグナルとして使用するの、難しいかなとは思っています。
- ・この病床使用率、先ほど申し上げましたどのタイミングで**50**パーセントとなっているのか。減少のトレンドの中で**50**パーセントとなっているのか、患者数が増える中で**50**パーセントになっているのかで全然全く意味合いが違いますので、あくまで感染者の増加指標、累積感染者数、陽性者率と掛け合わせるといこと、**3**つを並べて判断することが大事だと思います。

【朝野座長】

- ・オーバーシュートしたら圧倒的に患者数がどんどん増えていくので、それに対応するのがやっとなことになりますので、このオーバーシュートの段階では**3**つの指標というよりも、患者数が指数・関数的に増えていく。
- ・例えば、一週間前の二倍、三倍になって実際に大阪で起こりました、四月の始めぐらいに。その時は、本当にひやひやしていました。これがこのまま指数・関数に乗ってしまえば、世界と同じ状況になっていくだろうなど。
- ・だから、少し余裕のある時は、そういうベッドの占有率とか、そういうものも含めて特に下がっている時というのは、下がってきている時に上がり始めというのは、未だ余裕がありますので、そういう色んな指標を出しますけれども、もう上がり始めてしまえば、色んな指標を言う前にターニングポイントかどうかというところを見るための指標がいくつかのものを見ますけれども、このオーバーシュートの段階になれば、あっという間に患者さんが増えてしまいますので、何もそういうレベルの話ではなくなるということです。
- ・知事が今、ご指摘になっているところは、上昇のポイントということであればいくつかの指標を複合的に判断するということになるかと思えます。

【知事】

- ・そしたら、その上昇ポイントの把握とこれは陽性者率とリンク不明の感染者と上昇のポイントの把握とそのベッドのいわゆるキャパシティのところ、そこで一つの何か指標基準を作るといような考え方で一回整理してもらえますか。掛け合わせる場合もあれば、掛け合わせない場合もあるかもしれませんが、ちょっと一回整理してもらって。

【事務局】

- ・本日の予定の議題は以上でございます。全体を通じてご発言ございましたら、よろしく願います。

【知事】

- ・今日は、朝野座長、砂川先生もお時間いただきましてありがとうございます。緊急事態宣言が延長されたということで、大阪も厳しいエリアだということです。
- ・なので、府民のみなさん、事業者のみなさんに、これは一定感染拡大防止でお願いをしていきます

が、ただ、お願いする以上、大阪府としても取りうる策、家賃の支援策はしっかりとっていくということに併せて、きちんとした出口戦略というのを定めていきたいと思います。

- ・じゃないと、府民のみなさんも何を目標にしてどうなっているのということが分からないと思うので、そこは共有できるものに是非、していきたいと思います。じゃないと、この感染症はゼロにはならないので、ゼロを目指し続けると今度は経済が完全に死んでしまいますから。
- ・そういう意味で、じゃあ、いつになったらこれがずっと緊急事態宣言が続くのですか。そういう別の意味での不安もあると思います。実際に倒産、失業者が今増えているという情報も僕のところに入ってきています。
- ・なので、この感染のオーバーシュート、爆発拡大を抑えながらも、徐々に徐々に感染対策をとって行動変容を起こして、それに対応できる社会にしていくということを是非、目指したいと思います。
- ・その時にやはり何か客観的な指標というのに基づかないと、判断が恣意的になってしまいますし、ややもすれば、とにかくずっと全て自粛という方が、ある意味簡単な方法なので、でもそういった裏側で、経済で命を落とす方もいらっしゃいますから、非常に難しい舵取りではありますが、そういった客観的な出口戦略の数字を是非、しっかりと作って判断していきたいと思うので、それを大阪府の方針としたいと思います。それを**5月5日**の本部会議で最終決定したいと。その時に学校も併せて判断をしたいと思います。よろしくをお願いします。